は　じ　め　に

平成９年度の当研究所の業績がまとまりましたので，お届け致します。

この年度を振り返りますと，４月から当所の機構が保健科学課（事務係、保健科学係），生活科学課（微生物係，食品化学係），環境科学課（大気環境係，水質環境係）の３課６係になりました。マススクリーニング検査，食品検査に係わる業務管理，新興・再興感染症や食中毒に関する検査，環境検査，情報システム，研修など多くの業務について機能面での効率化を目指したものであります。

８月２８日には，札幌市が主催して指定都市衛生研究所長会議を札幌市教育文化会館にて開催致しました。主に食品衛生検査施設への業務管理基準（good laboratory practice，ＧＬＰ）に関する活発な討論が行われ，有意義な会議であったと思います。

９月１８～２０日には第２５回日本マス・スクリーニング学会が東京で開催されましたが，我が国で新生児マス・スクリーニングが開始されてから２０周年を迎え，その記念大会でもありました。本学会に積極的に関わってまいりました当所からも多くの研究成果が発表され，有意義な学会でありました。

平成７年１０月に新たにスタートした都市型水質汚濁防止検査技術に関するＪＩＣＡ研修は，今年度は５月１９日から２カ月間当研究所を中心に行われ，東南アジア，南米などから５名の研修生を受け入れました。また，７年目を迎えた新生児・乳児マススクリーニングに関するＪＩＣＡ研修は，南米，中近東，東南アジア，中国，アフリカから１０名の研修生を迎え，平成１０年１～３月に行われました。今回も国内だけでなく国外からも講師を迎え，例年にも増して充実した内容でした。

平成１０年１月からは当所内をLocal Area Networkで結び，また，Science Information Networkに加入してインターネットを利用する情報システムがスタートしました。同時にホームページ(http://www.eiken.city.sapporo.jp/)を開設し，当所の組織概要，広報誌「ぱぶりっくへるす」，国際技術協力，年報（論文一覧），新生児・妊婦・小児マススクリーニング，保健環境知識・あれこれ，といった内容を掲載しております。

内外のニュースでは，平成９年５月と１２月に，香港で鶏型インフルエンザ流行があり，死亡者が出ました。新型インフルエンザの流行が懸念されましたが，幸い鶏から人への感染にとどまり，人から人への感染は起こらずに終息しました。また，平成９年１２月に京都で，「気候変動に関する国際連合枠組み条約第３回締約国会議」が開催され，地球温暖化防止に向けて温室効果ガスの排出削減に関する数値目標が設定されました。地球温暖化をはじめ，オゾン層破壊、酸性雨など地球規模の環境問題は，最近出版された２，３の著書をきっかけに外因性内分泌撹乱化学物質へと発展し，ダイオキシンをはじめ多くの化学物質の人体への影響が改めて注目されるようになりました。経済面では，日本全体の経済が冷え込む中，特に北海道では，平成９年１１月北海道拓殖銀行の経営破綻とそれに続く多くの会社倒産は深刻なものとして受け止めなければなりません。

このような中，年報２５号が完成致しました。どうぞご高覧の上，ご忌憚のない意見を賜れば幸いです。この厳しい時代を乗り切るためには，従来の慣習に囚われることなく，なんとか工夫しながら前向きに日常業務に取り組んで行きたいものと思っております。今後とも，ご指導ご助言賜われば幸いです。

平成１０（１９９８）年１１月

札幌市衛生研究所長
藤田晃三